

## 第1回京丹後市網野庁舎跡地活用構想検討会議 会議録

- 1 開催日時 令和3年10月11日（月）午後1時30分～午後4時15分
- 2 開催場所 アミティ丹後 2階 研修室A・B
- 3 出席者氏名
  - 京丹後市網野庁舎跡地活用構想検討会議委員  
柴田隆行委員、足達純一委員、沖佐々木義久委員、松本昌子委員、  
濱岡文子委員、小林朝子委員、森政博委員、齊藤修司委員、  
山崎慶子委員、田中匡代委員、志水美咲委員、梅田豊子委員、  
中川正樹委員、杉岡秀紀委員
  - 事務局  
川口市長公室長、松本政策企画課長  
平市民局長、梅田主事、小牧支援員  
中川都市計画・建築住宅課長、安達主査
- 4 次第
  - (1) 開会
  - (2) 委員委嘱
  - (3) 市長挨拶
  - (4) 委員の紹介
  - (5) 委員長及び副委員長の選任
  - (6) 議題
    - ①これまでの経過について
      - ・網野庁舎跡地活用構想（提言）
      - ・まちづくりグランドデザイン推進事業
    - ②本検討会議の役割と開催スケジュールについて
    - ③地域拠点について
      - 1 話題提供  
「公共施設は誰のものか？—市民参加・協働・コミュニティの視点の中心に—」
      - 2 網野庁舎跡地活用構想について  
拠点（施設）を活用した地域の活性化について（意見交換）
  - (7) その他
  - (8) 閉会
- 5 公開又は非公開の別 公開
- 6 傍聴人の人数 2人
- 7 要旨

《議事経緯》

事務局：あと一人、ちょっと遅れて見られるということでございますけれども、その他の方は全員お揃いです。定刻となりましたので始めさせていただきます。皆さんこんにちは。只今から第1回京丹後市網野庁舎跡地活用構想検討会議を開会いたします。私は委員長が選任されまでの間、進行させていただきます京丹後市市長公室長の川口と申します。どうぞよろしく願いいたします。

委員のみなさまにおかれましては、本当に大変お忙しい中、ご出席をいただきまして誠にありがとうございます。どうぞよろしく願いいたします。座って失礼します。

最初に委員の委嘱につきまして、本日、配布をしている書類、委員名簿をご覧いただきたいと思っております。委員名簿のとおり14人の委員の皆様にお世話になります。本来ですと、お一人ずつ委嘱通知書を交付させていただくべきところでございますけれども、時間の関係もございますので大変恐縮でございますが、席上に配布とさせていただきますので、どうぞよろしく願いいたします。

なお、本日の会議につきましては、この京丹後市網野庁舎跡地活用構想検討会議設置要綱、これも後でご説明させていただきますが、第6条第2項の規定によりまして委員の3分の2の出席がございますので会議が成立していることをご報告させていただきます。

それでは開会にあたりまして中山市長からご挨拶を申し上げます。

市長：ご紹介いただきました中山でございます。今日は第1回ですね網野庁舎の跡地活用構想検討会議ということで、お忙しい中、お集まりをいただきました。本当にありがとうございます。日頃はこのコロナの関係で緊急事態措置も10月に入って全国的に開けてきたということでもありますけれども、この間は、住民の皆さんにはいろんなことでコロナの感染防止の取り組みにご負担やご尽力を頂いておりました。本当にありがとうございます。引き続きまだまだ感染防止の個々それぞれの皆さんにおける対策・対応の徹底が、引き続き重要でありますので、どうぞよろしく願いをいたします。

今日はコロナ対策にもこうして配慮しながらこの会議を持たせていただきたいなと思っております。さて、この旧網野庁舎ですけども昭和43年に建てていただいて、そして活用し始めて約50年網野庁舎としてあるいは市の網野庁舎として市民の皆さん、町民の皆さんに親しまれながら活用を進めてきたということなんですけど、50年経って老朽化も進んできたということで、平成30年になって解体の取り組みを始めて、令和2年には解体工事も終えたということであるわけなんですけど、もそれと重ね合わせるように、令和2年の3月に網野

町区長連絡協議会の皆様が中心になって、網野町民の皆さんが中心になって跡地の活用構想をご提言いただいたということでございます。こういった事をしっかりと市役所として受け止めながら跡地の活用について検討しなければいけないというふうに思ってきたところでございます。そんな中で、この6月に京丹後市役所の増築棟の整備の検討推進、さらには市全体の都市拠点の構想づくりということと合わせて、この大切な網野庁舎の跡地の活用構想についても、しっかりと市役所として検討していこうということで予算も頂いてそのスタートを切る、ということができたということでございまして、区長連絡協議会の皆様から頂いたコフーンのこの構想というものをしっかりと受け止めながら、網野地域の将来の振興の拠点として、具体的にどのような活用・施設を作っていくのかということ、さらには網野町の特色を生かした施設のありようを持って、京丹後の地域の振興、全体をリードして頂けるようなそのようなことも重ね合わせて、この施設に反映していきたいという想いも重ねて、跡地の活用構想について、具体的に検討していく場をこうしたかたちで持たせていただいたということでございます。ぜひ、ご負担おかけしませんがこの跡地の構想を、実り多いかたちで仕上げまして、そしてもちろん検討した結果に基づいて、具体的に施設は建てていくというようなことも、円滑にスムーズにそういった段階に移っていきたいというふうに思っておりますので、是非お力を頂きまして跡地の構想を作り上げていきたいというふうに思っております。お世話になりますどうぞよろしく願いいたします。

事務局：ありがとうございます。続きまして本日が第1回目の検討会議ということでございますので、委員の皆様方につきましてご紹介をさせていただきたいと思っております。2枚目に席次表をお付けしておりますが、時間の関係もございまして、私の方から柴田会長様の方から反時計回りでご紹介をさせていただきたいと思っております。

(委員紹介)

委員の皆様どうぞ宜しくお願い致します。続きまして事務局の紹介をさせていただきます。

(事務局紹介)

次に、本日お配りをしております資料の確認をさせていただきます。

(配布資料の確認)

それでは次第に従いまして、進行をさせていただきます。次第の5になります。委員長及び副委員長の選任でございます。本検討会議の委員長、副委員長につきましては、この後説明をします検討会議設置要綱第5条の規定によりまして、委員長一人及び副委員長二人以

内を置くとしております。方法につきましては、委員の互選と規定をしています。委員の皆様、選出につきましてどのようにさせていただいたらよろしいでしょうか。

(事務局一任)

ありがとうございます。事務局一任というお声を頂いています。事務局から提案をさせていただいてもよろしいでしょうか。(異議なしの声)

ありがとうございます。それでは提案をさせていただきます。まず委員長でございますが、福知山公立大学地域経営学部准教授の杉岡秀紀様をお願いをしたいと存じます。皆様いかがでございますでしょうか。

(拍手)

ありがとうございます。どうぞよろしく願いいたします。副委員長について、2名ということで網野町区長連絡協議会会長の柴田隆行様と京丹後市女性連絡協議会会長の梅田豊子様をお願いしたいと思います。皆様いかがでございますでしょうか。

(拍手)

ありがとうございます。それでは副委員長は柴田委員様、梅田委員様をお願いをしたいと存じます。どうぞよろしく願いいたします。それでは、検討会議設置要綱に基づいて会議の議長を委員長にお世話になりたいと存じますので杉岡委員長様、正面の席へ移動をお願いします。また、副委員長柴田様、梅田様につきましても正面の席へ移動をお願いします。

はい、それではここで代表しまして杉岡委員長からご挨拶をいただきたいと思っております。よろしく願いいたします。

委員長 : 皆様、改めましてこんにちは。福知山公立大学の杉岡でございます。京丹後市さんとはですね、平素からいろんな面でお世話になってございまして、コミュニティビジネス事業とかですね、あるいはジオパーク、そして中山市長には本学の講義等でもお世話になってございます。いろんな面で、あと峰山高校の方にも、2年前ぐらいから入らせていただいております、**小林さんも川口さんも一緒にございますけども、そのような形の中で**いろんな面で関わらせて頂いております。非常にあの地域力が高い、そのような地域のイメージを持ってございます。今日は駅から歩いてここまでやってきたんですけども、非常に周りを見渡してみますと、今回の庁舎の跡地の周りに非常にコンパクトに、色んな要素が固まっているなという印象を受けました。そこをより市民の方はもちろん、市民以外の方、最近の交流人口や関係人口という言葉がございまして、そういった方々にも開かれたような、そのような施設になっていくんだろうな

と、わくわく予感をした次第でございます。是非ともですね市民の皆さんが主役でございますので、私はアウェイ福知山市からの福知山市民でございますので、私の役目は、皆様の議論の交通整理役というふうに思っておりますので、自由活発にいろんなご意見を頂きながら限られた時間でございますけども、何とか皆さんが納得できれば、そして市民の方が納得できる、わくわくする、そんな結論ができるように進行を努めたいと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。

事務局：ありがとうございます。ここで中山市長につきましては他の公務がございますので退席をさせていただきたいと存じます。

(市長退席)

それでは会議の議事の進行に移らせて頂きます。杉岡委員長よろしくお願いたします。

委員長：はい、それでは私の方でこれより次第における「6番」以降につきまして、進行の方務めさせて頂きたいと思っております。今日は初回でありますけれども少し長丁場でございますので、途中どこかで休憩できたらなと思っております。よろしくお願申し上げます。

まずは「(1) これまでの経過について」ということであみラボを中心とする住民の皆様からいただきました、網野庁舎跡地活用構想(提言)と京丹後市さんのまちづくりランドデザイン、こちらにつきまして事務局からご説明いただければと思います。宜しくお願致します。

事務局：(資料1、資料2に基づき説明)

委員長：はい、ご説明どうもありがとうございました。大きく2点報告いただきまして、1つは後半のほうにあったものから言及いたしますと今年度から、京丹後市全体として進めていく都市拠点の話、あるいはこの委員会ですね、網野庁舎の跡地活用の話、そして峰山庁舎を含め庁舎の増築等のお話が並行して走ってますよ、と。全体像をまずご理解頂けたのかなというふうに思います。そして前半の方でご報告いただきました、この網野庁舎の跡地活用につきましては、既に区長連絡会様の方で、この数年間取り組まれた素晴らしいアイデア、足跡ですね。少し抜粋版ということで報告いただいたということでございます。私の方の触感と致しましては、後ほど少し「公共施設とは」という話させて頂きますが、50年という話が何回か出てきました。公共施設の大体の寿命は50年ぐらいがひとつのメルクマールといえますか基準になっておりますので、おそらく網野庁舎は50年を超えて、これ以上使うこと、そしてまた耐震して補強して使うよりはですね、一旦更地に戻して使う方が望ましいんじゃない

かという議論の中で、今議論が進んでいることは、ある意味で議論しやすい環境だということを感じています。と言いますのは、私も福知山や与謝野町、豊岡市などいろんなところの公共施設と関わっておりますけども、まず既存施設が残っている前提で議論しますと、それをまず工事するかどうかとか、その辺りの議論が出てきますので、更地の段階から議論できるというのは、実は珍しいパターンでございます、ある意味で非常に議論がしやすい。もちろん簡単ではございませんけども、非常に議論の整理がしやすいなということが第一印象でございました。そして何よりも今回の、あみラボさんの提言を読ませて頂きまして、今日は各論まで入らないということですが、まず第一にこのような検討する母体ができている、あみラボというキャッチーな名称もいいなと思いますし、そこに高校生が入られたということも非常にこれいいなというふうに感じました。16回ですかね非常に短い時間の中で、本来であれば行政の方でやらないといけないようなテーマだったかもしれませんが、それを区長会さんの方でしっかりと作成された、頭が下がる思いでございます。さらには絵がありましたね。専門でパースと言ったりしますけども。住民の皆様方の中で専門的なスキルをお持ちになった方が描かれたということで、本当に住民の力というものを感じるご提言を、今はまだ概略でございますけども共有できたのかなと思います。これからの時代におきまして、自分たちの地域は自分たちで考えていくんだという、ある意味見本のような段取りで進んでいらっしゃるなという印象でございます。ただこれを住民の皆様だけの意見ではなくて、いろんな関係団体の方々、あるいは少し離れて見るような視点も含めて、議論をある意味非公式なものから公式なものにしていくというのがこの委員会でございますので、さらに肉付けをしたり、少し軌道修正したいものがあれば、軌道修正もしてくような、そのような議論を今後して参りたいとそのように思っております。今日は各論までは入りませんが、まず現在の段階で平局長の方からございましたグランドデザイン、そしてこのあみラボの活用構想提言につきまして、何かこの段階で質問、あるいは区長会様の方で協議いただきました、またあみラボさんの方で協議いただきました中で補足などあれば、ご発言いただければと思います。いかがでしょうか。

はい、お願いします。

委員 : 区長連絡協議会からの活用構想（提言）の中で、この提言を出した時と比べて、若干変わっている部分がありますので、少し説明をさせていただきます。2ページの地図がありますが、跡地及び周辺図の本館という赤枠で囲んである中で、売り物件と書いてあります。

それから8ページの環境性という中で、隣接空き工場を購入、解体して欲しいという部分。この場所を購入して頂ければ、長方形のしっかりした形のものになるということですが、すでに今の時点ではこの売り物件には、ある法人の工場がすでに入っております、看板もかかっております。ですから隣接空き工場ということではもうなくなったということがございますので、ご了承のほうお願い致しますと思っております。

それから庁舎の別館ですが、先ほど市民局長の方からもご説明ありましたが、別館は建設部が入っています。建設は当然仕事柄たくさんの方の車両をもっておられまして、現時点では小栓川、2ページの地図では、ブルーのラインがありますけども、この横にずらりと車両が並んでおりますし、図面下側の車庫と図面上側の車庫、このラインはほとんど建設部の車両が現段階では占有しているということで、本庁舎の増築の検討いかんによっては、ここはどうなるかということがひとつ。場所的には大きな問題があるのかなと思っております。以上です。

委員長 : どうもありがとうございました。今2つ情報提供をいただきました。1つは売り物件となっております、2ページのところで、これが売りではなくなったということで、もう活用が進んできている、その意味においては、少し前提条件が変わりましたので、そちらがある前提で、少し長方形になりませんが活用を考えていくと。これにつきまして何かコメントなり、さらなる情報提供があればお願いします。もう1つは車庫等ですね。今日は各論までは入らないんですけども、今後の方針として、そういったことがある前提で議論していけばいいのか、あるいはある程度、他の所にこういった車両だとか車庫の全体が動いていくイメージで議論すればいいのか、全体のアウトラインだけ聞かせていただいてもよろしいでしょうか。

事務局 : はい、言われました売り物件の件ですが、市民局の方でも把握はしております、そこはやはり難しいだろうという思いで同じでございます。あとは車庫の部分ですね、車庫ですとか公用車の部分なんですけど、建設部が本庁機能集約化の方で移転していった場合には、そこの公用車はなくなっていくということがありますし、ただ網野市民局の公用車も一部ありますので、違う場所の移転ということも十分考えられますし、それは現時点で移転先どこにするかというのは回答できませんが、十分移転も考えられる所でございます。

委員長 : はい、どうもありがとうございます。そうすると図面上でスペースあみラボと書かれた駐車場を全て公用車で席卷するようなことは、多分ならないということも前提で議論できるのかなというふう

に思います。ありがとうございます。その他ご質問等ありますでしょうか。

はい、事務局から追加の情報ということで事務局からどうぞ。

事務局 : 事務局の松本でございます。少し平局長の説明に加えて補足させて頂きたいと思っております。先ほど沖佐々木委員の方からもありましたように、庁舎整備の検討のための会議が、まさに第1回目を先だって終えたところでございます。おっしゃられるように、その動向によってこの状況も変わってくるというふうなことでございます。事務局の方では、1回目を終えて、今後具体的な中身の検討会議での審議に入ってきますので、この場で建設部棟の動向についてお伝えすることは、言葉ではできませんけれども、基本的には増築棟を整備をしていくというふうなことの方向性の検討会議ですので、この建設部棟の状況も踏まえていわゆる集約化といったような方向で、今後議論は進んでいくことになるのではないかと考えております。

委員長 : ありがとうございます。委員の方はよろしいでしょうか。はい、どうぞ。

委員 : あみラボの活動が、1年間中断したという経過がありますので、この年度計画は1年ずれてきているという経過がありますので、これも合わせてお願いしたいと思っております。以上です。

委員長 : はい、ありがとうございます。私も自治会の役員やっておりますのでよくわかりますが、コロナによってほとんど自治会活動も止まっておりましたので、今ちょうど緊急事態宣言が解除されまして、今感染者が減っておりますという状況の中で、やはり対面の重要性、これは授業もそうなんですけども、改めて認識をされているところかなと思います。一方で、そういった中で1年間、1年半ストップしてまったことがたくさんあって、その中には地域行事などストップしたまま再生ができないようなものも出てくるんじゃないかと危惧しております。是非とも兜の緒を締め直してですね、感染状況を見ながらでございますけども、少しでも巻き直しができるような、そのような議論になっていただければ嬉しいなというふうに思っております。ありがとうございます。

その他ご質問とか委員の皆様いかがでしょうか。よろしいですか。またあみラボさんからのご提案につきましては、次回の会議でさらに詳細な議論の経過だとか、アイデアのご報告いただきますので、今日は全体の方向性について、何かご質問、ご意見がございましたら拾って行きたいなと思っておりますがよろしいですか。はい、では何かあれば、副委員長のお二方も含めてご発言いただければと思いますので。一旦進めさせて頂きます。



では議題6の(2)「本検討会議の役割と開催スケジュールについて」。この検討会議を何回するのか、いつするのか、どんなことを議論するのか、ということにつきまして「資料4」に基づきまして、事務局の方からご報告いただければと思います。よろしくお願いたします。

事務局：(資料3、資料4に基づき説明)

委員長：はい、平局長ありがとうございました。事務局の方から「資料3」と「資料4」につきまして、この検討会議の使命とスケジュールにつきまして、ご紹介頂きました。ゴールは京丹後市網野庁舎跡地活用構想を策定するとなっておりますので、あみラボさんの方から提案を頂きましたアイデアをベースにしながら、市として公式な跡地活用構想というものを、最後は文章としてまとめるということがゴールでございます。さすればどのようなスケジュールやるのかということがございますけども、先ほど少しコロナの状況ということもございましたが、なんとか開催できる時期ですので、集中的に毎月一度ご参集いただきまして、4回議論を取りまとめていきたいということでもございました。皆様におかれましては、10月、11月、12月、1月とお世話になりますが、どうしてもこれで足りなければ、もしかすると第5回目ということもあるかもしれません。それを含めて、今年度中になんとかこの構想をまとめ上げて、次年度以降は、その基本計画や基本設計に入っていて、そして実施設計。この辺は業者さんをお願いをして、予算の話が出てきますので、完成を迎えますのは、令和6年度から7年に工事が終わって、令和7年度の4月から使えるのか、もうちょっと遅れるでしょうか。資料でいきますと令和8年度から使えるでしょうか。

事務局：はい、別の資料のまちづくりグランドデザイン推進事業。こちらの資料をもう一度ご覧いただきまして、7ページの方をご覧ください。「資料2」になります。網野庁舎跡地整備スケジュールイメージということで、先ほど局長の方が説明をした資料の、横が年度で縦が中身というような仕様になります。ここにありますように建築工事を6年度に取り掛かって7年度中を目指していくというような線表になっておりますので、はっきりとした使用時期というのはまだ定かではありませんけれども、建設工事はこのような考え方で進んでいければな、というようにスケジュールのイメージをしているところでございます。

委員長：はい、ありがとうございます。そうすると令和7年度まで、不確定要素ありますが、令和7年いっぱいかかったとして、令和8年から使えるのかなというイメージでございます。少し息の長い作業になってまいりますけども、いま令和3年度でございますので、スムーズに

行ければ、令和8年度にはオープンして新しい姿を見れるのではないのかなと思います。

それでは委員の皆様。スケジュールや検討内容につきまして何かご不明な点、あるいは補足で情報提供すべき点があれば頂戴できればなと思います。いかがでしょうか。

よろしいでしょうか。こういったスケジュールで皆様には4回ほど集中的にお集まりいただくこととなりますが、本日は全員参加で行けて良かったなと思いますが、毎回全員が揃うかどうか分かりませんが、なるべく全員が揃うような会議になればいいなと思ってございます。よろしいですか。

はい、ありがとうございます。それでは議事につきましては、いま(2)「本検討会議の役割と開催スケジュールについて」にまで行ってまいりましたので、続きまして、(3)「地域拠点について」これが、①「話題提供」、②「網野庁舎跡地活用構想について」とございますので前半を私の方で担当させていただきまして、後半はフリーディスカッションということで、今日は事務局の資料、そして私が今からお話しする資料に基づきまして、今日はざっくりばらんに網野庁舎跡地に向けたアイデアとか、思いとかあるいは逆にこれまでの思い出とかですね、お一人方ずつ情報提供なりご感想を頂いて、今日は大きなところの皆様にご意見をお伺いする機会にしてみたいなとそう感じております。

委員長 : それではですね、少しだけお時間頂きまして、私は大学の教員でございますので情報提供ということで、少しこの問題を考えるにあたりまして、何かしら少しでも客観的なアイデアなり、情報を提供出来ればと思っています。このあたりも含めて、網野庁舎に関してこうすべきだ、ということは何も入っていません。あくまでも一般論ということでお聞きいただければありがたいなと思います。なるべく長くならないようにしたいと思いますが、15分、20分お時間をいただくことになるかなと思います。私の話が終わったら一旦区切りで、休憩を入れたいと思います。

まずタイトルの説明からしたいと思います。皆様のお手元にはこれとまったく同じものを資料として入れていただいていると思いますので、どちらかをご覧いただければと思います。左とか右向くと首が痛いかもしれませんので、見やすいほうを見ていただければと思います。

私の方から話題提供申し上げたいのは、「公共施設は誰のものか」。もうひとつ付け加えるとすれば、「何のためか」ということを、少し話題提供させていただければと思います。自己紹介は省略させていただきます。私の専門は公共政策、地方自治が専門なりま

すので、これまで地域力再生とか地域貢献とか地方自治とか行政改革とか、こういった仕事や研究をずっとしております。この界限でも舞鶴市とか福知山市、与謝野町、京丹後市、丹波市、朝来市などで行政改革、総合計画など、最近は公共施設関係の仕事が多くなってまいりましたが、このような仕事を沢山しておりますので、皆様とは違った立場から言いますと、他の街の情報をたくさん持っています。それが私の強みだろうと思いますので、そういった話を少し提供する役割を担えればと思います。

まずですね、ここはあまり明るい話題ではありませんが、議論の前提でありますので、やはり確認はしておこうと思います。

それは人口問題です。調査は去年ありましたね。多分区長会の皆様にも骨を折っていただいたのではないかなと思いますが、5年に1回国勢調査で実際住んでいる人は何人いるんだろうか、という人口統計を国が取っております。京丹後市につきましては、これが最新の数値です。何と比べればこれが本当かどうか分かるかと言うと、住民基本台帳ありますよね。もうすぐ選挙がありますけども、住民基本台帳で市役所に登録している方、転入届を出している方の数でありますので、実際そこに住んでいるかどうかというところには、ギャップがあります。例えばうちの大学は800人ぐらい学生と教員おりますので、ほとんど住民票を移してないと思います。したがって住民基本台帳に出てこない人間が住んでいるといことがあるわけですね。京丹後市も工業団地があつたりしますし、数値の前後はすると思いますが、これは実態に近い数字です。50,867人というのが京丹後市の国勢調査の速報値です。

5年前に比べてどうなったのかということですね。2015年に前回の国勢調査はありましたので、そこに比べると4,187人減じたというのが現実ですね。私はここを深刻に受け止めていまして、他の5市2町とくらべてみましても、実は一番減少したのが京丹後市ですね。これを5で割ってください。そうすると1年間の数が出てきます。約4,000人になりますので一年間で800人ですね。一年間で800人ずつまちから人が消えているというのが、今の京丹後市の現状です。

この原因はもちろん自然減と呼ばれる病気やケガで亡くなる方。もうひとつは社会減ですね。高校進学、大学進学あるいは就職の時にまちから出て行く。その方が帰ってこない。その合計がこの4,187名、一年間で800人という数字は決して楽観できない数字かなと思います。ちなみに次は舞鶴市で3,600人、一年間で700人ずつ減っています。福知山市は五年間で1,500人しか減っていません。ですから一年間で300人ずつですね。福知山市の倍以上、京丹後市は人口を減らしているというのが現状です。これは止まるか、止まらない

かと言いますと止まりません。今生まれている方々の人口統計は読めますので、爆発的に赤ちゃんが増えない限りは、この人口統計は向こう30年間変わりません。ですから人口減少は止まらないという前提で議論する必要があります。しかし、小林さん含めIターンの方が非常に多く京丹後市に来られている事も事実でありまして、魅力を高めることによって未来の姿は少し悲観的なシナリオから変えることができるだろうと思います。そこに施設の魅力や網野の持っている力。これはやはり非常に重要な魅力になるのではないかと考えております。ちなみにこれも決して明るい話題ではございませんが、地方創生という言葉が出たのが2014年、2015年でしたが、その時は2040年の人口を皆さんはよく見ていました。その10年後の2050年です。千葉大学が公開している全市町村の統計がありまして、このままで行きますと2050年の今から約30年後です。京丹後の人口はこのままで行きますと28,000人になります。28,000という数字は大体今の半分ぐらいですね。30,000人を大幅に切ってきます。というのがこのまま進んでいったシナリオです。特に注目したいのは、今日はPTAの副会長様もいらっしゃいますけれども、0歳から14歳までの中学校3年生までの構成比率が、現在約12%です。ですから10人に1人は子供たちがいるという状況ですが、そこが7.9%まで下がっていきます。10%を切って、100人いたら8人しかいない。残り92人はある意味、高齢者を中心とする子供じゃない世代になってくるというのが、30年後に訪れる未来であります。ここはもうよほどのことがない限りこの推計通りになって参ります。これは京都府平均、あるいは全国平均は約10%でありますので、非常に子供達が減ってくるということでもあります。だからこそ、この「コフーン」の中で子供達の子育て環境の話だとか、そのような子育ての魅力ある拠点という話が出てきているのかなと私は推測しているところでございます。ちなみに65歳以上の方は、高齢者と言っていますが65歳以上の方の比率は54.2%となります。現在、全国平均は約30%ですね。3人に1人が高齢者。これが大きく50%を超えてきますので2人に1人が高齢者という町が、30年後にやってくる未来であります。その中でも75歳以上の方が4割ぐらいを占めてくること。これはいま「百寿率」という言葉を京丹後市さんは使っていらっしゃいますが、元気な方が増えることは、いいこともたくさんありますので、決して数だけで悲観する必要はないと思いますが、大きく人口構成が変わってくる。図のように若者が非常に少ない逆三角形のような形になっていきます。ここを前提に議論を進めなければいけないと思います。これをどれだけ批判をしても、これは統計の話でございますので、感情を抜きにして事実はどうなってくるということなのです。

次に公共施設の話です。今日は市役所の跡地の話ですが、ここまで全国的な議論になりましたのは、今から約10年前、関東の笹子トンネルで崩落事故がございました。トンネルがいきなり崩落してきて、生き埋めになってしまったことで、9名の方が亡くられました。これ以降、国土交通省の方で全国の自治体に橋梁、道路も含めた公共施設を総点検しましょうということで大号令が出ました。それが各市町が作っている公共施設白書。あるいはの公共施設に関する再配置計画とかですね。そのような計画を各市町が作りました。私もいろんな町のお手伝いさせていただきましたけども、京丹後市さんももちろん持っています。非常にネガティブなワードから始まったのですが、やはりここから見えてくることは何かと言いますと、先ほど50年という話をご紹介しましたが、人間にも寿命があるように施設にも寿命がございますので、やはり50年ほど経つてくるとそのままでは使えないとなってきますし、今の時代で言いますとバリアフリーだけではなく感染症対策はどうなのかなど、色んな事も考えないといけない時代に突入しているということでもあります。ちなみに京丹後市は、人口1人当たりの面積でいいますと、京都府内で一番の公共施設を持っていらっしゃいます。これは背景がありまして、一言で言うと合併です。京丹後市は6町合併をしておりますので、6つの町が合併した結果、京都府で一番公共施設の面積を持った町となっていますので、基本的にこれから人口が約半分になっていく。財政もいままでよりも落ちていく中では、このままこれを維持してしまうことは、財政破綻、施設崩落か、あるいは何とか市民の方が守っていくというかたちも考えていかないと、どこかでいろんなガタが来てしまうことは明らかです。福知山市もかなり激しく公共施設を減らしています。かなり批判もあります。ですからしっかりと住民の方々と納得するまで議論をして、納得できる活用方法。市だけで決めてしまい、一方通行で押しつけられてしまうと、そこで市民と市の中で溝が大きく作られてしまうということが起きます。

与謝野町も公共施設のあり方を議論していくということを始めました。与謝野町は面積がそんなに大きくないですけれども、いずれにしても京丹後市は、6つの町が2004年に合併した際に、この問題は議論すべきでした。合併するとき、この施設は果たして京丹後市として継承するのかどうか、でもその時はそのような議論する余裕はなかったと思います。全国でそういった合併と公共施設の議論をした町はほとんどなかったと思いますので、今になってこれを一気に議論しないといけない状況になってしまった。後手に回っているというのが日本全国の状況です。

今日は福知山市の話をお話提供させて下さい。これが庁舎の跡地と直接は事例が違いますけども、どういうふうに進めて行くのかというのは、結構共通している点があるかと思っています。

今、福知山市は人口77,000人ですが、実は小学校の廃校が平成25年ぐらいから進みまして、16校の小学校が廃校しました。福知山市も合併しておりますので、旧三和町、旧夜久野町、旧大江町、それぞれ3つずつ小学校ありましたけども、全て小中一貫校になりまして、3つずつ廃校している状況です。旧福知山市内の方も廃校が進んでおりまして、福知山市の基本的な方向は、売却と賃貸の2つだけです。ですから市として何か活用していこうということはほとんどないです。ある意味分かりやすいですよ。というのは、統計を見たら明らかですが、1つあたりの小学校が廃校になっても実はコストがかかっています。たとえば地域の方々が手芸教室で使ったり、地域のイベントで使っておられますよね。そんな中で言うと大体福知山市の相場でいいますと年間100万円ちょっとかかっています。小学生は使っておりませんが電気、ガス、水道。あとはセコム。この維持費で100万円かかっていますので、何もしなくても16個廃校舎があれば1600万のお金が出ていっている状態になっています。なんとか血を止めたいというのが福知山市の考え方で、なるべく民間業者に買ってほしい。あるいは地域で使うにしてもそれに家賃を払ってください。こういった考え方です。これは良いか悪いかは別ですが、福知山市はそういう選択肢をとっています。現在は4つほど活用が進んでまいりまして、どんな事例か簡単にご紹介します。

1つは、今月号のフリーペーパーの表紙ですけども、うちの学生たちですけども、これは旧中六人部（なかむとべ）小学校というところです。中六人部というのは、総理大臣を輩出した芦田均のおられた町ですが、そこが廃校になって株式会社井上さんというイチゴの会社さんが、これを賃貸借で借りていらっしゃいます。非常に賑やかな活用の仕方です。土日は人が集まっておられまして、こういったイベントなどたくさん催されています。ただ地域からすると少し使いづらいと言いますか、民間の方々が日頃使うわけで、そうすると自分の母校であるかもしれませんけど、土足で人のオフィスには入れませんから地域の方からすると、企業利用が進んでしまいますと、少し縁遠くなってしまうという声がちらほら聞こえてきます。

もうひとつです。これは旧佐賀小学校という小学校で、綾部との境にあります。報恩寺筋というたけのこが有名な場所で、そこにある小学校ですが、皆さんご存知でしょうか。お城の目の前に足立音衛門さんという和菓子の美味しいスイーツ屋さんがあるんです

ね。1万円ロール、3万円ロールなど百貨店に入ってらっしゃいます  
お店です。そこが買い取られました。ここは5,000万円で売却です。  
土地と建物込み5,000万円で足立音衛門さんが買い取られました。そ  
こに3億円の工事費をかけまして、この10月1日にリニューアルオー  
プンしました。里山ファクトリーということで、イメージとして  
は、滋賀県のバームクーヘンのクラブハリエ。あのようなかたちで  
作っているところを見ることができたり、喫茶コーナーができ  
たり、地域の方々も朝、野菜の販売をしてもいいコーナーがあつたり  
といった形の中で、基本的には校舎を潰さずにリノベーションしな  
がら使っていらっしゃるという状況です。契約としては10年間この  
まま使ってもらえますが、10年を越えたら足立さんが不要と思え  
ば、潰してしまうことが出来たりします。それが良いかどうか分か  
りませんが、当面はこういったかたちの中で売却しても10年間  
は、外観を保ったまま維持してくださいという契約をしています。  
これもやはり企業が買い取られましたので、地域からすると、協定  
のようなものを結びながらやっておられますけども、気軽には土足  
で入るわけにはいきませんので、地域からすると縁遠くなってい  
ったところがあるのではないかと考えています。

そういった中で私が関わっているのは、旧川合小学校という小学  
がございまして、こちらは旧三和町にあります。大原神社がある近  
くですけども、その小学校に今かかわっています。これは今年の9  
月の議会でちょうど活用の利用者としての選定を受けまして、みん  
なでお金を出し合って家賃を払いました。月5万円、年間60万円を支  
払って、地域の皆さんと一緒に使える拠点にしていこうというこ  
とで動いています。福知山市から見れば、放っておいても110万円が出  
て行ったわけですが、そこに60万円が入ってくる施設に変わります  
ので、役所としては嬉しい活用方法かなと思います。それだけで  
とどめてはいけないだろうというのが我々の思いです。

(パワポP15) 地域の農家の方なんですが、地域の方が立ち上がっ  
て、ここはOBの方がたくさん住んでいらっしゃいますから、OB  
の方が帰って来られるような拠点にしたい。それでいて、この町も  
人口減少が著しいので、外から来た人や観光客も含めた新しい人が  
気軽に来れるような拠点になったらということの中で、1階部分は教  
育的な使い方をしようということ。2階部分がサテライトオフィスと  
言ひまして、大学や企業が一時的に使っていくようなオフィスとし  
て。3階はアーティストの方に使っていただいて、アートといっても  
スペースは結構ありますよね。そんな中でいうと教室を使ってもら  
ってアーティスト活動ができるような場所にしていきたいと思います  
ということ。いまグラウンドでは、毎週土日里山のキャンプ場の方が活

動してしまっていて、毎週すごい人数の方が来ています。コロナもあってキャンプがすごく流行っています。1日で14張り、人数にしまして40人くらいの方々が毎週末使っていらっしやいます。また体育館があるんですけど、この体育館は防災の拠点にしようということで、最近のジェンダーバランスを考えて、LGBTQの方もこういったところで避難する時に困らないような、今年は訓練も行っていきましょうといったところを、この秋から冬にかけて実験を行っていきます。そのような中で、ここは福知山で唯一、地域の方々が中心となって活用を考えているということでございまして、比較が分かりやすいと思いますけども、民間の方へ売却という話もあったんですが、資本金や民間のスピード感やイノベーションももちろん大事なんですけども、要はバランスかなと思ってございまして、福知山市はそういうふうには言っても、小学校活用は若干バランスがどうなのだろうと、個人的には思うところがありますけれども、この旧三和町の川合小学校のような使い方が広がってくると地域の方々も活用し得る、それでいてお金を生んでいかないと始まりませんので、60万円の家賃を払うための収入をどのように得ていくのかという議論を毎週行っております。

というわけで、みなさんに話題提供として申し上げたいのは、公共施設というものは、誰のためにあるのか。何のためにあるのか。改めて少しだけ問題提供させて頂きたいと思っています。これは私の仲のいい前橋工業大学という大学が群馬にありまして、そこの堤先生と最近よくご一緒するんですが、少し刺激的なタイトルで「公共施設のしまいかた」。このしまいかたというのは、決して閉じるという意味だけではなく、実は質の高い公共サービスを提供できる状態にする。つまり施設の議論とそこで提供されているサービスの議論を分けましょう。という話をされています。例えば、体育館というところで、バスケットやバドミントン、卓球などされていますよね。なにが大事かというと、「体育館」ということが大事ではなくて、そこで集える広いスペースがあって、そこで集える仲間がいて、アクセスが良くて、卓球ができることが大事なんですよね。そうすると例えば、小学校の空き教室でもできるかもしれない。こういう発想をしていかないと、やはり公共施設をそのまま維持していくということだけではなかなか難しいです。ですから注目してほしいのは、そこでどのようなことがなされているのかということです。ですから網野庁舎の場合は、庁舎でありましたのでそこは行政の仕事がされていたオフィスであり、また住民の方々がそこに住民票を取りに行ったり手続きをされていた。いま別館があると思いますが、それが集約されていくと、行政機能は必要なくなっていく



わけです。そうなってくると、そこではどのような公共サービスを行われるべきなのかということは、むしろこれから造っていく話、あるいは点在しているものを集めていく話ということが、今回のあみラボさんが提案された中で、議論されていることなのかなと思います。これまであったことをただ復活させるという議論ではなくて、新たなものを想像していくような公共サービスの議論なのだろうなと思っています。

次に「誰のものか」。特にこういったものは議会議決もいりますし、役所が素案を描いて行くのですが、最終的には住民のものであるということです。当たり前といたら当たり前ですが、だからこそ住民の意見をしっかりと聞いて、公共施設をどうしていくのか、施設がなくなったとしても、サービスをどう維持していくのかを考えていくことが大事であって、このプロセスを若干ですが私の住んでいる町は少し飛ばしているのではないかと感じざるを得ない瞬間があるわけです。ですからあみラボさんの提案が素晴らしいと言ったのはお世辞ではなくて、今後はこういう事こそ普通にしていかなければならない。これが普通の公共施設の考える時の標準モデルにしていけないと思っています。

ただ難しいのは、議論し始めますと総論賛成各論反対となります。例えば与謝野町でも起きていますけども、体育館を毎日使っている方々は、体育館を取り壊すとなった時は、絶対に反対してきて反対運動にまでなりました。ですけども、全く体育館を使ってない方からすると、私はもう20年は使ってないからしかたない。子供たちのために取り壊すほうがいいのではないかとこのように正解はありません。住民一人ひとり想いが違いますから、そこはやはり調整していくことが大事です。単なる多数決で決めるとか、議会で決めればそれでいいということではないということです。時間もかかりますので、本当にあみラボさんの16回のワークショップは、高校生を巻き込んで未来も意識した凄い事をやられたんだなと思います。ただ、時代は進んでいきますので、さらに議論を進めていかなければいけないということです。

そして「何のためか」これもポイントだと思います。公共施設は何のためにあるのか。正確には公共サービスは何のためにあるのかと言い直したほうが良いと思いますが、大事なのはこれですね。これは法律に書いてあります。皆さん異論はないのではないかと思います。ようは幸せのためです。法律用語では住民福祉の増進と書いていますが、公務員は何のためにあるのか、役所がなんかなるのか、全く同じことがございまして住民の方々がここで生まれて良かった、ここで育ててよかった、ここで子育てしてよかった、ここで

働けてよかった、ここで死ねてよかった。そのような幸せをあげるために公共サービスがあるわけでありますので、今回この網野庁舎跡地でどのような機能、どのような人が集い、どのような笑顔を作っていくのか。まさしくこれに尽きると思います。それで幸せになるのであれば、これでハッピーですね。ただお金だけ何十億もかけて、誰も使わないようなものを作ってしまうと、これは不幸せになってくるわけで借金だけが残ります。税金を使うわけですので、別に儲かる必要はないです。ただし赤字にならないように採算も意識しなしといけませんし、少なくとも利用して良かったという声をたくさん集めていくような施設にしなしといけないのではと思います。福祉の福も同じ幸せという意味です。

行政の役割と住民の役割ということで先に申し上げておきます。先ほど、「この売り物件どうなりましたか」、「公用車はどうするんですか」という質問がありましたけれども、行政の役割は住民の代理人でもありますし、権限も持っていますが、一番大事なものは「情報」です。何よりも誰よりも役所に情報が集まっていますので、その情報をしっかりとこの会議も含めて、住民の皆さんと一緒に考えていくために提供していただく。これが最大の役割だろうと思います。住民の役割も単なる受身的に役所のサービスの提供を受けるだけでなく、一緒になって汗をかく。このコフーンの議論で大事なものは、いったい誰が運営するのですか、いくらかかるのですか、何十年間そのモデルは見通しが立つのでしょうか、人口が半分になる中で、パートナーとして議論していく。あくまでも主役は住民です。私は住民ではありませんから主役ではありませんが、関係人口として関わっていききたいなと思っています。

はい、私の話を長くしてもしょうがないのでポイントだけお話しします。

1番目は「多世代」というキーワードです。たとえば高齢世代、これからコフーンの利用者は、3人に1人がこうなると思います。学生世代、未来の宝ですよ。高校生を初め中学生、小学生あるいは、ここに住んでいない大学生の子ども達に関われるかどうか。そして、忙しい子育て世代、社会世代。働いている中で、寝るだけという、まちとの関わり方が実際多いんだろうと思います。ですがそこに一歩踏み込んで土曜日と日曜日に何か皆さんと一緒に交流できるようなワクワクするような場所。そして幼少世代は言うまでもなくです。このような多世代の10代から、もっと言うと一桁から、90歳、100歳ぐらいまでの方々が利用できるような施設に是非ともなればいいなと思います。もちろんバリアフリーも考えなければいけませんし、トイレの数、あるいは1階と2階のどちらに置いた方がいい

いのか。色々な議論があるのだらうと思いますが、キーワードは多世代で議論していく。とりわけ議会にはない声、それは若者、女性、サラリーマンです。これらの声は議会に入りにくいです。どこの議会をみても高齢の男性ばかりです。だからこそ、ここはすごいです。14名のうち7名が女性です。こういったことが当たり前になっていくような事を皆さんで作っていく。

市民参加という言葉があります。細かい話は今日はしませんが、大事なことは、市民参加と言いながら実際は行政が市民のニーズを聞くための場になっていることが多いです。主語が「行政が」の仕事になりがちです。「意見を聞きました」という形で終わってしまいます。だからそうではなくて大事なことや色んな手法ありますけども、まさしく今回の順番はいいですよ。まず地域で叩き案を作って、その後で行政に持ってくる。行政が先にルールを引いてそこに乗のせるのではなくて、先に住民の方で深い議論が行われた。これはすごいことだと思います。

【P33アーンスタインによる市民参加の8階梯】要は1番上のレベルまで行こうと思った時に、今の日本は5階までくらいしか上がれていないです。最後の階段が登れないことで、ずっと足踏みを続けています。このパートナーシップは、言うのは簡単ですが、本当の意味でパートナーシップが出来ている団体あるのかなと疑問です。

なぜかという、お金持っている人は権力もってしまいます。発言権もってしまいます。ですから、活用後のあり方についてこの4回でどこまで深められるか分かりませんが、行政の直営がいいのか、指定管理者がいいのか、あるいは委託がいいのか、あるいは自主運営で完全に無償賃貸がいいのか、そのあたりもかなり議論する必要があります。それぞれメリットとデメリットがありますし、その辺りは中川さんがお詳しいと思います。

「協働」です。大事なことは、住民の方、事業者の方、専門家、職員、議員いろんな方々がネットワークを作ってこのような企画を作るだけではなくて、実際に運営主体にもなっていく。これが協働と呼ばれる概念で、なかなかこのレベルまで行っているところは少ないなと思います。ですから、今回の構想でいいなと思ったのは、市民交流センターや市民交流スペースといった言葉が出てきますよね。こういった部分を役所が直営でやっても上手く行く事例はほとんどありません。ですから、市民の方がしっかりとハンドルを握って、こういった市民の方々の活動を応援していく。そういったことができればいいなというように思いますが、これも「言うは易く行うは難し」です。どうしてもお金をどうしようかというところで行き詰ってしまいます。

(P38) はい、このあたり先ほど少し言いましたが、もしこの「コフーン」という施設をやっていく際に、どのような運営方式を取っていくのかは、かなり運命を決めるのではないかと考えています。1個だけ事例をご紹介しますと、指定管理者制度というのは、今日本で20年間ほど事例がありますが、本当にケースバイケースです。図書館は、ほとんどが企業の指定管理者でやっているところも多いですけども、ただ、給食を指定管理者から直営に戻すという事も最近は起きています。民間に任せても安いけれども、冷めた給食が届くなど、それよりは直営で行った方がむしろ総コストが下がるといった中で、一旦は指定管理で行って、直営に戻すことになった事例もありますし、またその逆もあります。ですのでどのような形で京丹後市さんが、今回のこの施設に関わっていくのかということは、正解はないと思います。作るという主な工程はありますけれど令和8年度以降は、どのような運営と関係性を築くのか。そこが実は大事で、むしろ8年度以降のほうがお金はかかります。その部分の議論はどこまでできるか分かりませんが、大きな方向性はこの会議で議論しなければいけないのではないかと考えています。

【新しい公共とはなにか①】ここらへんはちょっと触りだけ、大事なことは、今、岸田総理の新しい所信表明がありましたけども、民主党政権は短かったですね、非常にいろんな意味で問題があった政権ではありましたが、いいところがひとつだけあって、それは公共利益についての言及です。これはよかったのではないかと考えていますが、何かというと、人を支えるという役割を行政だけでなく、いろんな分野、市民一人一人に参加してもらい社会を創っていく。このような価値観を2009年の国会で喋っておられました。これは今でも活きていると思います。つまり行政だけで公共施設を運営管理するのではなく、地域を支える今日お集まりの皆様を中心とする、網野町を支えるキーパーソンの方々に参加してもらえような社会をどうつくっていくのが求められます。

簡単じゃないです。人口問題、財政問題、あまり明るい話題はないと思います。そういった中で、いま頑張っているらっしゃるふるさと納税なども、ひとつのヒントになると思いますし、こういった連携ができるか分かりませんが企業の方も、もしかしたら追い風のような関係性になるかもしれません。その逆もちろん可能性はあります。

【パートナーシップの原則】これだけ入って休憩しましょう。最後に大事なってきますのは、パートナーシップという話かなと思っています。いま行政の中の委員会に我々が入っていますけども、今後、施設を運営する団体が決まってくると、その団体と役所が対等

の関係を築けるかどうか。これが一番難しいです。あとは自主性、それぞれ強みがありますから、地域は地域の自主性があります。役所は役所の自主性がありますから、お互いが尊重できるかどうか。そして自立化。これも難しいです。この市民交流センターはそれほど利益がでない施設です。儲けるために作るわけではないですから当然ですね。ですけどもある程度お金も入れるモデルを作らないといけない。そういった中で、どこまで自立化に近づけられるかです。つまり市長は4年ごとに変わっていきますから、この構想に理解がない市長さんであれば、中止した事例も世の中にはありますよね。そうならないように、ある程度自律的な運営や財源確保も考えないといけない。相互理解は言うまでもないです。目的の共有、そして情報公開。こういったことがしっかりとできるようになればいいなと思っています。最近「SDGs」よく聞きますよね。ちょうど9月末はSDGs週間でしたけれども、網野町の住民よし、役場よし、地域よし、さらには未来よしというところを、難しいですけども議論しないといけない。未来の子ども達やまだ生まれてない子ども達のこと考えながら、約50年間使ってもらえるような施設なのだろうと思いますので、未来を喋れるような、そんな視点でも是非とも皆様に議論をできればなというように思っています。大事なことは、放っておいたら治るような時代ではありません。コロナも含めて、人口減少も含めて非常に難しい社会です。どれだけノーベル賞を取ったような方々が集まっても、簡単には解決できません。ですから大事なことは、自ら治めていこうというあみラボさんの動きのようなことを、どれだけ持続可能な息長くできるかどうかです。振り向けば担い手がいないというありがちな現状です。そういったときに、次はこの人に任せよう、その次のリーダーは彼だ、といったかたちの中で、リーダーを生んで行けるような、住民自治につながるような、地方自治に繋がるような施設になったらいいなと思っています。

(P47) これが最後のスライドです。これは福岡県の職員さん達にご紹介していた言葉なのですが、「改革のDNA」改革D=できるから始めよう。N=納得できる仕事をしよう。A=遊び心を忘れずに。この中で私はAが大事だなと思っています。やはり楽しくないと続かないじゃないですか。ですから、この委員会の議論も決してやさしい議論ではないと思っていますけども、このコフーンと見立てることとかですね、住民の皆さんの遊び心も詰まっているなと思っています。是非とも会議数は限られていますけども、遊び心もちょっと意識していただきたいです。ここは行政はあまり強くない領域なので、この領域こそ住民の皆さんの力の見せ所という部分は

るんだらうと思います、是非遊び心もあるような議論につなげていけるような、私もお手伝いさせていただきたいとそのように思っております。

それでは、私の予定していた時間がきました。ここで10分間休憩を取りたいと思います。3時10分から、皆様の今日の感想とか、この施設、土地に対する想いとかをしゃべっていただく時間にしたいと思います。

(休憩10分)

委員長 : はい、それでは初回ということもあって長時間となっております。なるべく円滑に進行してまいりたいと思っておりますが、皆様が主役でございますので、今からマイクをお一方ずつ回させていただきますので、副会長のお二方を最後とさせて頂きまして、順番に今日の感想でも結構ですし、あるいは網野庁舎跡地に対するアイデアでも結構ですし、あるいは直接は絡まないかもしれませんが、いま自分の身近に起きていて、今回の会議で一緒に考えてみてはというアイデアなど、どんなことでも結構でございます。この網野庁舎を巡って何か感じていることを、一言ずつお伝えいただければありがたいなと思っております。では、名簿の順で恐縮でございますけれども、どの視点からでも結構です。ご自身の関わってこられたコフーンの補足でも結構でございますので、本日は感想でも大丈夫です。特に制限時間を設けておりませんが、なんとなく4時に終わりたいなということを少し見ていただきながら、よろしく願いいたします。

委員 : 区長をさせてもらって2年目なんですけども、こういった話の全体に通じないかもしれませんが、住民さんと話をしている、みなさん他人事です。誰かがやってくれるだろうと。参加してくださいとやることができない。自分事化、我事化がきちんとできると話のベースになるのかなと思います。

委員長 : ありがとうございます。大事なことです。おそらく皆さんに、自分事化して欲しい、我事化とかして欲しいと言っても、まず伝わらないので、楽しいところに人はやって来ます。楽しい空間とか、楽しい場作りというのが、キーワードかなと私は感じています。

委員 : 地域のみんなでこの活用を考えたいということであみラボが発足して、区長連絡協議会の方で提言をしていただいたというわけですけども、網野町の現状を見ると、至る所に解体業者が入って、それほど古くない大きな工場が解体されています。いかにもちりめん産業が厳しくなっていることを目の当たりしているわけです。当然、空き家も増えています。そういった中で、地域の拠点となるべきと

ころで何を本当にするべきか、活性化というのは言葉で言うのは簡単ですけれども、何をどう活性化していくのかというところが、難しいところかなと思っております。さきほどの先生のお話の通り、人口減少、高齢化、これはどこの町でも抱える問題です。ですからやはりまずは子ども達が楽しく安心して過ごせる場、そして高齢者社会がどんどんこれから進行していきますので、多世代の交流ができる施設。このあたりがポイントになるのかなという気はいたしております。それと、見ていただきますように 体育館あり、図書館あり、地場産センターあり、幼稚園ありということで、非常にまとまったエリアですので、これをどううまく連結させてみんながワクワクして大勢の方が集まれる場所にできたらなと思っております。

加えて、これから網野町をリードしていくものはやっぱり観光であり、この素晴らしい網野町の自然が、大きなひとつの宝物になると思いますので、観光、魅力ある町を発信する場所でありたい。例えばEバイクで久美浜町から経ヶ岬まで走れるコースがあったり、大学生の合宿でマラソンの練習ができたり、対外的な関係人口、交流人口をこの施設から発信して増やせていけたらと思います。とりあえずは、これを建てて誰も来ないような施設が一番悲しいので、みんながわくわくとして取り組めるものであってほしいです。

それともう一つは、新しい地域コミュニティづくりということで進んでおります。これを今回の拠点とどう絡ませて行くのかという部分。提言ではあまり触れられていないですけれども、この跡地の利用内容は、委員の皆さん方のご意見でいろいろと考えてもらうということになっております。私も提言させていただいた立場です所以说させていただきますが、一応この提言の原案として、これから皆さんと本当に真剣なところのご意見をこれからの会議で出していきたい。

私は毎日、跡地の前を歩いて、いつもここには何ができるか、という想いでもいっぱいです。見ているとあまり広いところではないなと思ったり。委員さんが言われた通り本当に自分事として、網野町民全員が、その想いで取り組んでいただけるとありがたいなと思っております。

委員長 : 本当に思いの詰まったコメントありがとうございます。解体業者のお話、京丹後市のみならず与謝野町でも、ちりめんは苦しんでおります。産業が変わっていく中で人口減少、その中でどのような新しいアイデアを組み合わせしていくのかということを改めて感じるコメントでございました。

一つヒントなのかなと思うのは、地域の団体、役所もそうですけれども、とにかく縦割りで役所の場合は、省庁の縦割りに応じて課がで

きていますからしょうがないですが、住民の方々も実は縦割りですよ。例えば、婦人会は婦人会だけ、老人会は老人会だけとほとんどが縦割りの組織となっていますから、キーワードは「ごちゃまぜ」だと思います。今、石川県の佛子園という社会福祉法人が10年ほど前に、「シェア金沢」というものを作られて、多世代の方をごちゃまぜにするような形の中でまちづくりをされています。そこには、我事化をするための仕掛けとして、商い、仕事があるんですよ。単なるボランティアでは続きません。ですからそこでどのような仕事を作っていくのかというのが、実はキーワードなのではないかなと思っています。ではどんな仕事在那里で生まれるのかということを是非とも議論していただきたい。完結はしなくていいと思っています。余白を残した中で、後から入ってきた方も提案できるような、施設でもいいのではないかなと思ったりしますが、構想の核は絶対に話し合わなければいけないので、皆様の知恵を絞って、私も含めて知恵を絞りながらですね。乾ききったタオルをさらに絞り続けたいなというふうに思いました。ありがとうございます。

では続きまして、同じく区長連絡協議会からの推薦者ということ  
でコメントなり感想をいただいてもよろしいですか。

委員

： あみラボに参加させていただいて、1年以上、計画を練ってきたんですけども、今日この会議へ来て、まちづくりグランドデザインというものが進められていると知って、あみラボの私たちだけじゃなかったとびっくりしました。確かに人口減少化もありますし、私たちは、網野庁舎跡地の活用をどうするかということで、1年以上に渡って話し合いを進めてきた中で、私はシルバー世代に入っています。できるのが約5年後ですので、より歳をとっています。ですから出来上がった施設を活用するのは若い世代ですよ。もう少し若い世代の意見を取り入れられるように、あみラボは継続してやっていくつもりですので、そういうところに若い世代を少し来てもらって意見も聞き入れたいなという考えもあります。あとは、よくあみラボにいるときに言っていたのですけれども、ただ集まって何かしようというだけではつまらない。本当にわくわくすることをしよう。楽しいことをしよう。何をしているかはわからないけど、あそこに行ったらなにか楽しそうなことをやっているよ。というのが周りに派生したら、行ってみようかということが絶対あるだろうということをお話していただきましたので、若い世代にも来てもらえるような、「なんか知らんけど楽しげだ」ということを発信していけたらいいかなと思っています。



委員長 : どうもありがとうございました。若い人の意見というのは本当に大事です。私もこの委員の人選を見た時に、男性、女性の比率、素晴らしいですね。と感心しましたが、年齢を聞いた時にもう少し若い世代を入れられなかったのかなと苦言を言ったんですけども、ただ小林さんもいらっしゃいますし、中川さんもいらっしゃいます。丹後緑風高校の生徒さん、あとは若者の定義は難しいですが、厚生労働省の定義で言えば35歳ぐらいまでは若者ということになれば、高校生ももちろん含めて、20代、30代の方々の意見をもう少し入れられるような仕掛けが必要であれば、この会議でも作れると思います。番外編でワークショップをしたりなどですね。必要があればやっていければいいのではないかなと思います。あるいはあみラボさんが動いてらっしゃると言われていましたので、あみラボさんの方で主体的に動いていただいて、改めて高校生以下、例えば今度は小学生、中学生の意見を聞いてみようなど、並行して走ってもおもしろいのではないかなと思いました。私が最近読んだ本で、京丹後にぴったりだなと思った本があるんですよ。何かと言うと、石川善樹先生という方、お医者さんなんですけども「友達の数で寿命が決まる」という本です。科学的に検証されて書かれています。実は、京丹後市は木村次郎右衛門さんの話も含めて、非常に100歳以上の方が多町ではないですか。健康に長く生きられる町は、本当に素敵な町の条件だと思います。では何がする規定しているのかということが、府立医科大学さんと連携して調査もされていますけども、おそらく要因を特定すればひとつではないと思います。それでもひとつの要因として、今分かってきているのは、実はつながりの数です。友達の数です。もっと言えばコミュニケーション、会話の数だけ寿命が延びるということなんですね。もしかすると、この京丹後という土地柄は、6町それぞれ違うかもしれませんが、非常にそのようなコミュニケーションが豊かだったのではないかな、そういったことが実は、健康寿命や平均寿命を上げてきたのではないかなと仮説を持っています。これを立証するのは難しいですけども、しかし逆に言えば、先ほど委員さんおっしゃったような、建物を作って誰も来ないのはもったいないです。ここに来れば来るほどみんな寿命が延びていくというような施設。これも半分冗談半分本気ですが、そういったことの実験もできるような施設になれば面白いなと思います。そのようなことも含めた色々なアイデアを、今までの議論も尊重していきながら、さらに深めるようなことをしていかなければいけないかなと改めて感じました。ありがとうございます。

委員 : 私は子どもが2人いまして、上の子は女の子で、下は男です。下の男の子に「ここ（跡地）が空いたらどういふものがあったら楽し

い」と聞くと、ちょうど夏休みだったので、夏休みの絵の宿題で「こういうものがあつたらいいな」というテーマで絵を描いたんです。その絵がほぼこれに近くて、構想が出来上がってからの話だったんですが、子どもが二人ともバスケットボールをやっていて、バスケットコートが欲しいとか、あと皆で遊べるような公園も欲しいし、中心地なのに周りが暗いんですよね。街灯も少ない。もう少し明るければ、私の家から図書館まですぐに行けるんですが、周りが暗いため遠回りしないと図書館にも行けない。ですから子どもが小さい時は、つい車を使ってしまう。中心地なので明るい防犯効果もあった、人が集まってくるような、常にだれかがいるような場所にしていたらありがたいなと思っていますんですけど、先ほど松本さんが言われていたとおり予定がずれてきまして、5年後といったらうちの子ども達は地元から出て行ってしまおうという年になるんですけども、できれば子どもが描いていたような町になれば、みんなが集まって楽しめる。ましてや子供の数も少なくなってくるし、そういった場所にできたらいいなと思います。以上です。

委員長

： どうもありがとうございます。非常に良いヒントをいただいたなと思います。1つは暗いというお話で、先日夜久野町の地域協議会の事務局長さんとお話していた時に、塾からの帰りが怖いという意見が多く上がったため、小中一貫校の話をししたんですけども、住民の皆さんに呼びかけをして、「20時まで電気をけさないでほしい」という運動をしていらっしゃいます。そうすると、塾などから最終電車で帰ってくる学生を迎えに行く、あるいはそこから自転車で帰る時に、自分の家に着くまで、電気がついている。私も福知山市に移住した時に感じたのは、住民のみなさんは外の電気まで全部消すんです。そうすると結構怖いですね。また青いLED電灯は、心理的には犯罪抑止力あるかもしれませんが、怖い感じがしてですね、福知山も結構暗いです。国道沿いなどは別ですけども一歩路地に入ったら暗い。ですからその辺りを行政の力を借りなくても「皆さんで20時までには電気つけましょう」。それを言うだけで、もちろん各ご家庭で電気代は少し高くなるかもしれないですけども、子ども達のためだったら協力しようとなります。こういったことをお金をかけずにやっています。例えばこの町でも同じことができたらどのような光景が広がるのかなと思ってみたりしました。あとは、さきほど絵を書いたとおっしゃったじゃないですか。あと約4年あると言うのは、確かに僕は長いなと感じがするんですよね。でもその間にアイデアをブラッシュアップできると考えれば、今いくつ小学校があるか分かりませんが、例えば小学生に網野庁舎跡地をテーマにした絵画コンクールをみんなでやってくれませんかとか、中学

生では作文コンクールで文章にしましょうかとか、高校生はtiktokを使って動画コンクールをやっていませんかとか、あの手この手で子ども達の意見を聞くようなことをやってみて、みんなで「これは私の意見やで」と言わせればいいわけですよ。そしたら（施設に）来ますよ。人が作った者に対するものに関心は持たないですが、これは自分が少しでも関わったと思ったら、愛着がわくじゃないですか。福知山城で言ったら一枚瓦運動と一緒に、86年に再建した時に皆さんが瓦を買ったんですね。名前を載せていますよね。あのような形の中で参加する仕組みというのは、この会議だけで全部終わりではないと思っています。是非とも委員さんおっしゃったようなアイデアを、学校の方に役所を通してでもいいですし、小学校、中学校は京丹後市さんでお願いできますから、高校は管轄が京都府さんですけど、絶対にやって欲しいなと思います。議録に残るはずで

委員 : 私もあみラボに関わっていて、こういった検討委員などは色々参加したりして、行くのが億劫だなと感じものもあるんですが、あみラボは行くのが楽しみだなと思うもののひとつだっていると思っていて、終わった後に打ち上げをしたりとか、家に夜中まで遊びに行かせてもらったり、これに関わったことで繋がりができたみたいな。その流れのままの場ができたらいいなと思っています、その場所が建物なのか、それとも建物は作らないで公園なのかというのは、これから検討していくことなんだろうなと思うんですけど、こういう委員会の時に若い人がなかなか入れないというのは、やはり仕事をしているからという事だと思うんです。例えば火事になった時に、仕事している人でも消防団だったら行っていい、というような雰囲気はきっとあると思うんですけど、このあみラボに関してだけでなく、このまちづくりグランドデザインで掲げているように、京丹後市がどういう方向に行きたいのかというのを、例えば平日の会社員の人からの意見を聞きたいから、こういう検討委員会に会社側からポジティブに社員を出してくださいと町として言えたりすると、例えばその場ができた時に、普段は別の仕事をやっているけど、副業のような形でその場にいれるだったりとか。誰がやるかということをも真面目に考えてかないと、考えていたタイミングと動き始めるタイミングも、例えばコロナだけでも1年で事情が変わる中で、4年後、5年後は絶対にいま想像している未来と違うなと思う中で、ずっと関わり続けながら考え方を変えながらやってくる中で、今のメンバーがそのまま年を取るのではなくて、若い人がどう入ってくるかという仕組みを作るためにも、建物以外の予算も丁寧にかけてく必要があるのかなというようにも感じています。4年後、5年後

にできるということは、例えば高校生が今出したアイデアを、大学に行っている間に関わってもらいようにしていくと、卒業後にここが仕事ができる場になる可能性もあったりだとか、高校生が意見をしたこと、大人たちが叶えてくれたと思うとすごく成功体験になるというか。このあみラボもそうですし、今、網野町の島津の方でお世話になってまちづくりなどに関わらせてもらっているんですけど、私たちが言った意見を、声の大きな年齢の高めな、やろうとしていることをちゃんとと言える高齢の方がいることによって、すごい物事は動くなと思っていて、先ほど委員長が言っていたみたいに、半分が高齢者になってくる未来が来るのであれば、若者が一つ出したアイデアを、5人の高齢者の人たちが体を動かして叶えるよ、みたいになってもいいんじゃないかなと思っていて、3、40代はやはり子育てとかで忙しいので、アイデアは出すけど動けないんだというところを、高齢者がサポートするとか、高校生が意見を言っても恥ずかしくない空気づくりをするとか。ソフトの面しか話さなかったですが、この建物ができる4、5年後までは、そう考えると短い期間かなと思うんですけど、そういう町になっていったらいいなというふうに委員長の話を聞き、前の4人のお話を聞いていて、考えたところなんです。長くなりました。すいません。

委員長 : どうもありがとうございます。Iターンの視点ということも含めて少し客観的にこの町を見ていらっしゃると思いますので、本当にあの腑に落ちるお話ばかりだったなというふうに思います、私もそうだなって思うのは、先ほど国勢調査の話をしましたけども、実際住んでいる人の数なんですよね。大事なのはそこもそうなんですけども、実はあそこの数字に入っていない方々で、京丹後にゆかりのある方がたくさんいると思います。先ほども5年後はうちの娘もいないかもしれないという話もありました。京丹后市は大学がないから、町を出ているかもしれないけどもその方が、居場所として家以外に寄れる、第3の場所なんて言ったりしますけども、そういったかたちで、何か居場所があることによって、暗い。でもこの施設に入ったら明るい、何が明るいかという、人が明るい。そのような拠点ができるとすごくいいのではないかなと思うんですよね。ぜひとも見える人だけじゃなくて、日頃見えてないんだけども、ここにいたら面白いだろうなという人を引き寄せるような議論に繋がると、先ほどの観光の話もそこに繋がると思うんですが。この町もそうなんですけど、特に地元に戻ってきてないのは女性なんです。男性は半分くらい戻ってきているんです。女性が2割しか戻ってきてないんです。ですからターゲットはどちらかという女性だと思っています。その女性がこの町に戻って来たいと思えるような地域づくり

ができるかどうか、そこが一番頭が痛くて、この10年間、20年間なかなか対策が打ててないんです。男性はまだ半分くらい帰ってきています。

委員 : 私も網野なので、ただ私も移住組です。正直言うともう5年前にさせていただいて、私の場合は網野の人と結婚することになりました。そのままこちらに移住してきている状態なので、またちょっと見方が変わってくるのかもしれないですけど、先ほど委員長がお話しいただいた通り、仕事としてというのが、僕もすごく大切だと思っていて、ボランティアであるとか意義、意識であるとか、その想いっていうだけで5年、10年続ける事は正直無理だと僕は思っています。やはりどこかがビジネスとして何か持続可能に回していける部分ってというのは、何かお金が生まれたりとか、何か作れたりだとかというところに紐付くのかなと思っていて、実は先ほども公共施設の運営というところと言うと、今、丹後王国の道の駅の内面的な運営を我々の方がさせてもらっています。指定管理は我々ではないんですけど、ただ道の駅としてやっている中で、もちろんうちの施設は、皆さんの方がご存知の通り、旧あじわいの郷の頃からの施設です。やはりそこから何をやるのかといった時に、実は今、我々の園内で空いている施設がほぼほぼ埋まっています。埋まってくる理由は、誰が来ているかと言うと一人は移住者です。まったく丹後から関係なくて、京都から丹後に移住されて新しい建物を自分で作るのではなくて、今あるものの中に入って自分のやりたいことをしたいっていうことでやられている方が一人と、この11月から網野出身の方で、別のところでやられていたけど自分で建物と言うか、自分で干物屋さんとか海鮮加工品をやりたいということで、これもうちの施設を活用して中に入られました。まだ他にも多数の方から、それこそ飲食店をやりたいとか、そういうことやりたいんだとかっていう方が、結構来てくれているんです。そういう方々がやっぱり新しく1から物を作るのではなくて、例えばこの施設の中でチャレンジができるとか、次の世代というか、移住者の方々に、京丹後市の食は非常に豊富だと思いますし、先ほどの観光というところにおける網野の地域は、観光のメイン拠点だと思うので、その中で何かチャレンジできるようなきっかけ作りにも今回の場所がなればいいなど。地域住人だけではなくて、そこで逆に言うと高校生がアルバイトできる場所が増えたりだとか、次の世代の人たちがここで仕事を作ろうかと思ってもらえるような、そういうフィールドができるのが、僕の中では一番面白いのかなと思っていて、先ほどのお子さんの話ありましたが、うち男の子が4人います。すね、男の子4人が全員帰ってくると思うと逆にぞっとするんです。

ど、一番下はまだ0歳なので5年後ちょうど保育園、保育所に行つて、小学校になるかなぐらいの時に建物ができるとなった時に、やっぱり何が欲しいかなとか、どういうことができればいいかなと思うと、さきほどの世代をまたいだ交流はすごく大切だと思つていて、実は正直できないですけど、僕は丹後王国に特別養護老人ホームを作りたいとずっと思つていたんですけど、それできないんですけどね。施設の的にできないんですけど作りたいと思つていました。それはやっぱり養護老人ホームが出来て、そこに高齢者の方が入られた時に、そこを目的地として家族がいくのは、土日だけであつたりとか行くきっかけを作らないといけないんですけど、みんなが遊べるようなわくわくする場所にそういう施設があつて、誰でもが行く、子供だけでも休みに入つたらおじいちゃん、おばあちゃんに会える、それがどこでも知らぬおじいちゃん、おばあちゃんでも会つて話ができ一緒にわいわい遊べるみたいなきっかけ作りにもなるとすごく面白いのかなとは思つていたので、今回の場所の立地的にはいろんなものが、この中心街には揃つているので、活かせる場所がこの施設でまた生まれたら面白いかなと思つています。

委員長

： ありがとうございます。丹後王国の資産と言うか、ネットワークと言うか、目に見えないネットワーク含めてこの網野庁舎の跡地に繋がってくるような、わくわくするような余白を感じましたし、仕事というキーワードは、先ほどおっしゃつた通りやはり丹後王国のミッションからすると、特養は出来ないとなつてくると、ここも行政施設となつた途端にできないことだらけになつてくるわけですね。ですからそこをどのような施設にすべきなのかという位置付けは、非常に大事だと思います。加えて私が視察に行つたところで岡山県奈義町という町がありまして、ここは出生率が2.8%なんですよ。今少し下がつていてと思いますけど2.8%というのはすごくて、福知山市は今の最高で2.02%、京丹後市では1.6%か1.7%だと思いますけれども、出生率の高い一つの秘訣として、「仕事コンビニ」というものがあるんですよ。イメージは、シルバー人材センターはどの町にもあるじゃないですか。その全世代版なんですよ。ということは、引きこもりの高校生から仕事を受けて、もちろんこれは受託してですね、少し仕事する。短期とか単発が多いんですけど、それでも数を重ねていくことによって、自分の自立化、あるいは復活のためのチャレンジができるんですよ。子育て世代の方々も急に復活するのは、勇気がいりますから、少しリハビリを兼ねて単発の仕事を受けながら、お客さんとの関係性を創る、あるいは自分のノウハウをもっと磨き直すような事をやつていらつしゃいます。そんなこともできたら面白いなとお話聞きながら思つましたし、あと

は行政が出来る事という文脈で言うと、島根県雲南市という町があるんですよ。非常に地域づくりが進んでいますけども、人口は3万人ちょっとの町です。京丹後市の20年後の未来です。この町では「チャレンジ推進条例」というものを2019年に作っているんです。これは単なる理念条例ですから、罰とかは何もないです。若者から高齢者までみんながチャレンジをしようということをやっているんですよ。なので結果として、私が一番驚きましたのは、町の高校生の子達が自分の町に帰ってきたい、あるいは住み続けたい、関わり続けたいという回答が90%を超えているんですよ。私が関わっている町で一番低いのは京都府精華町です。中学生のアンケートを取ったら8%しか帰ってきたいと言わないんですよ。92%が出たいというんですよ。宮津市もひどいです。7割か8割が出たいという結果です。だから京丹後市のエビデンスは持っていませんけども、ここで生まれ育った方々が帰ってきたいと思えるまる。帰ってきてもいいなぐらいの選択肢に入ってくれるような、そうしていく町にするためには、気風が大事です。制度だけでなく風土も大事です。ですので先ほどの委員さんのお家はすごくいい風土だなと思いますし、こういった風土も少しずつお裾分けして頂きながら、おもしろい空間をできると思いますよ。ありがとうございます。

委員 : 私も4人の子供がいます。今年から峰山町にある京丹後市未来チャレンジ交流センターで、ちょこちょこ私も子供もお世話になっていて、rootsというスペースは、やりたいという気持ちを受け止めてくれるスペースだと私は思っていて、この間夏休みに子供がアクセサリーを作りたいと言って、rootsさんをお願いしたら叶えてもらったんです。その子どもがやりたい、大人がやりたいを叶えてもらえるスペース。一緒にやろうと言ってくれるスペースに、ここがなかったらいいなとすごく思っていて、あと建物も「まちまち案内所」でやられている、DIYをしながらみんなで作っているというのもすごくいいなと思って、次建つスペースもそうやって、みんなが愛着が持てるように、みんなが手をかけられるような、DIYができるようなコーナーもあっていいのかなと思っています。以上です。

委員長 : ありがとうございます。非常に短い時間の中だったんですけど、非常にヒントを得ました。峰山のroots。私はまだ行けてないですけど、いろんな人からいい噂を聞いています。今のお話はすごくポイントで、子ども達の数は100人中8人になるという話をしましたよね。高齢者の方が50%を超えてくる。逆に言うと、先程委員さんが言われましたように、5倍応援してくれる人がいるんだと思えば、一人の人間、子ども達が何かやりたい、こんな夢があるんだ、野村克也さんのような野球選手を目指したいという時に、大人が応

援してくれる。その大人も幅広い世代の方々が、君の夢のために応援をしてくれるような施設ってすごくいいと思いますね。これは行政はできないです。やはり住民の力の見せどころで、もちろん100%とか100点を取れないかもしれませんが、そういった応援団がいる安心感だけで、その子が持っている地域感は相当変わるんじゃないかなと思います。是非rootsさんの話を、例えば、今日私20分ぐらい喋らせていただきましたけど、地域内にもヒントがある。そんな話を、次回とかは少し聞いてみるみたいなそんな場があってもいいですね。そういった中で委員さんがおっしゃった事をみんなで受け止めて、rootsさんにこの部分のアイデアと一緒に考えてもらおうとか、そういう中で峰山モデルが京丹後モデルに変わる可能性がありますよね。ぜひ平さんよろしくお願いします。

委員

： 立場は文化関係なのですが、私も網野に住んでおまして、この場所は1日に何回も通っていきまして、どんなものになるんだろうと思っていたら、メンバーにさせていただくということから、この書類を届けていただきましたして、見させて頂いた時にあみラボさんが集まっていたらっしゃるといこともお聞きしていたんですが、本当にこんな素晴らしいところまで形にさせていただいているんだなと。そこにはやはり高校生とか若い方、年代の幅の広い方が集まったからこそ出たアイデアだなということを強く感じまして、また区長会の皆さんがここまでの形にされたというのもすごいじゃんという感じで見させていただきました。

私は実はもう丹後は長いですが、こちらの生まれではないんですけども、ただ子ども達にこの地域に伝わっている、丹後ちりめん小唄という踊りを教えたりとか、それから盆踊りの講習会みたいなものにも参加させて頂いて、お伝えする側になったりしているんですが、なぜ地元の人はずっと頑張ってくれないのかと、感じて思うことがたくさんあったんです。でも、やはり私がこうやってさせていただくのだったら、私がすいませんね私なんかでと言いながら、お伝えをさせて頂く立場でずっとやっておまして、子ども達にも丹後にはこんないいものがあるよ、私は丹後の人間なんだ、丹後ちりめん小唄をこうやって踊ってきたよと。そういったことを思っ  
て、いずれ京丹後の外に行くにしても、また帰ってきてほしいなという思いで、日々子ども達に接しているんですけども、もう私達の年代の方が、私と同じようにこの元々ある丹後の素晴らしい食から自然からそういうことを、あまりにも普通に身近にあるので、当たり前でその感動というものを皆さん分かっておられないと思うんですけども、そういうことを私たちの年代に要求しなくても、今おっしゃっていた若い方たちが、こういうものだったりとか、roots



だったりとか、そういうことに今関わって自分たちで作っていくという方向に進んで頂けたら、色々なことが広がっていくかなと感じました。また、この施設の中にフリースペースみたいなことを2階にたくさん作っていただくとありましたけれども、レポートの2階、図書館の反対側がある程度フリーなスペースがあったんですけども、現在は取り壊しの関係から商工観光部が入って、全く使えない状態になって困ったりしたこともあるんです。そのような事に使えるスペースだったりとか、本当に素晴らしいなと感じておりますので、あとはおっしゃっていたようにオープンなスペースにして、誰でもが集えるということが大切です。本当に立地がすごくいいところで、今回の施設が高齢者施設でなくても、ら・ぽーとの中に、社協もデイサービスもありますから、そういう方達がお散歩ができる場にもなって、そこに子供達が遊んでいたらいいなと。子供にとっても高齢者との触れ合いは大切なことですし、本当に色々な可能性をたくさんもった本当にいい場所なので、そういうことを活用した場所にしていただきたいと思います。すいません長くなりました。

委員長 : とんでもございません。ありがとうございます。若い人の意見を取り入れたアイデアの話前半おっしゃいましたけども、お話をお聞きしておりました思ったのが、市民大学というものをやっている地域があるんですね。近くだと与謝野町が与謝野未来大学というものをやっていたり、あるいは大阪の交野という町では、交野おりひめ大学というものをやっていたりとかですね。あとは、さやま市民大学などいろんな事例が沢山あるんですけども、要は、地域の皆さんが教える側にもなって、受講する側にもなって大学がない町だけれども、京丹後市さんも京都市内の大学と連携した授業をやっていますけれども、あれは外部の若者だけで完結してしまっていますから、それを市民の方々が学びあって、教えてって、先ほどの一人の若者たちを応援するという拠点になってきて、尚且つそれが、人を集めなくても、ふと周りを見ればすぐ手が届くところにお客さんがいるじゃないか。というところも巻き込んでいければ、非常に可能性が広がっていくようなお話を感しました。ぜひとも具現化に向けた議論をしていきたいなと思います。ありがとうございます。

では順番にあと5名の方ですね。お世話になればと思います。

委員 : 先日、こんなに立派な資料をいただきまして、少し戸惑っているようなことで、考えもない中で参加させていただいたんですけども、皆さんの意見とかいろんな場所からの意見が聞けて、よかったのではないかなと思っております。簡単ですが以上です。

委員長 : ありがとうございます。たくさんアイデアが出ますので、また今後もどんどんアイデアを思い付いたら出していただければ、ありがたいなと思います。

委員 : どこにでも海、山、川と、日本全国何千箇所とあるわけなんですけど、その中で京丹後をどう売るか、どう知ってもらおうかというのは、一番大切なことで、観光は冬のカニ型と夏の海水浴型、京丹後市にはこの間がないんですよね。完全な二期型で、大きな問題点となっているわけなんですけど、観光客も冬で35万人の宿泊、日帰りを合わせるともっと行くんだと思いますけど、結局、京都市内から2時間少しで来られるわけなんですけど、東京に行く出張なんかでも、公社の方でも十分日帰りで行って帰ってこられる交通網になっていますので、そこを考えるといま地域がへこんでるわけですけど、どの地域も力も入れてるわけで、結局は京丹後をどう売るか、これが一番問題であって、その時に地域の人と人、人のぬくもりが一番大事ではないかなと思うんですけど、結局、人手不足で「おてつたび」を今お世話になっているんですけど、その時に人と人がどう結んでいくか、地域の人はどう迎えてくれるか、どう繋がっていくかということが一番問題であって、そういった場所があるかないかによって違ってくると思うので、ぜひそういう場があればいいかなと思います。

委員長 : ありがとうございます。いわゆる民泊や農泊が、なぜここまで訴求したのか。やはりそれは見ておしまい、食べておしまいではなくて、人と人の繋がり、思い出。だからこそ2回目、3回目とリピーターが繋がっていくということだろうと思います。コロナによってオンラインのツアーなどもたくさん増えましたが、やはり駄目ですね。なかなかオンラインだけでは続かないです。特に初対面が駄目ですね。なので逆に言うと1回は来てもらって、その後にはふるさと納税なども含めて繋げていくような、そのような繋がりが売れると面白いですよ。観光という切り口で感じられないかもしれませんが、何回か足を運んで、足を運べばお金落としてくれますので、そういったところにこの拠点もなっていくと本当にいい場所でございますのでね、未来は広がるなと思いました。ありがとうございます。

委員 : 商工会からの立場で来させて頂いておりますが、それはまた次回以降、何かしら述べさせて頂きたいと思っております。私は、あみラボさんにも所属させて頂いていたこともありまして、その時も一番最初にだけ言ったんですけども、グランドデザインの資料の中に、地域の拠点として、図面の中でT字の中心点にここになっているので、そういったところでその当時は、網野町の人だけが集まっ

て話すことが、はたして京丹後市の地域の拠点としての役割を担うところに合致していくのかなと疑問を持ちながら活動に参加していたという経緯もありましたけど、最終的にこういった提言書を見ると、流石に皆さんよく考えられて作り込んでいただいているのかなと。私も所属はしていましたが、いいものを作られているなど感じております。でもこれを進めていく中で先ほどからお話がありますけれども、やはり周辺施設ですよ。アミティ丹後しかり、ら・ぼーとしかり、その後ろの旧幼稚園しかり、そういったところの活用と言うかあり方というところも踏まえながら、跡地の計画を立てていかないと、何かこう同じものになってしまったとか、そういったことにもなりかねないということがあるので、特にこのアミティさんの使い方ももっと地域の方が使いやすい施設にならないかなと、前から思っていたので、そういったところの含みを持たせて計画をしていければすごくいいなと思ったりしておりました。

あみラボでワークショップに参加した時には、最初の方で出ましたけど、高校生とワークショップをさせていただきました。ワークショップなので、ここに何があったら帰ってくるという話題になった時に、USJがあったらとか、ジャスコがあったらとか、コンビニがあったら、とかいう話が出てくるんです。それなら君たちは、この施設があったらこの町に絶対に帰ってくるのかと聞いたら、首をかしげるんですよ。それならなにがあったらここに帰ってくるのと聞いたら、やっぱり友達が居るから、家族がいるから、という何かしら自分がここで生まれた繋がりがあれば、家族が一番絆が深くて小さい単位ですけど、そういった繋がりがあからというところは絶対だと思うので、自分の子どもが帰って来ようと思ったら、自分のその孫が帰って来ようと思ったら、高齢化というのはよくないかもしれないといけないのかなと思えたり、高齢者がたくさんになると、どうしてもイメージ的に良いのか悪いのか、表と裏と言いますか、どうしても良いイメージにしようと思うと、先ほど委員さんが言われた、若者が意見を出して年寄りが活躍する、要は高齢者が生き生きとした町というところも目指す必要があるのかなと思ったりしています。となるとやはりあみラボの提案している繋がりでしょ。誰もが繋がれる空間というのは、すごく大事なことになるのかなと感じました。

あと脱線しますけれども、最初に委員長が言われた福知山の井上さんを私も知ってしまして、少し関係のない話かもしれませんが、その方から言われたのが、地域の小学校を活用させていただくということに至るにあたって、どのような手順を踏まれたんですかと聞

いたら、最初は市に行きましたと。その時は門前払いでした。それならどうされたんですかと聞いたら、今度は区長さんや地域の方のところへ行かれて、その方達と仲良くなって、学校を使ってくれる企業があるのに放っておいていいのかと。その方々と一緒に市に行かれたというのを聞いたんです。京丹後市がどういった状況なのかはわからないですけど、もしそういった事例がある場合は、企業の方をないがしろにするのでなくて、できる、できないは関係なく、少しは耳を傾けていただける行政さんになってほしいなという願いです。

委員長 : どうもありがとうございます。地域の拠点という、冒頭にお話があって、T字の横軸と縦軸が交わる場所にあるんだという網野の立地的な状況で、そういう意味では、第一義、第二義、第三義と考えれば、第一義は住民の皆さん達が日常的に使える施設であるべきだろうと思います。ただ、そこで完結しない、それが公民館との違いで、公民館とか集会所というのは狭域活動です。知っているメンバーだけが使うというのが集会所や公民館でありますけれど、今回は開かれていくというイメージだと思うんですね。そこに委員さんがおっしゃったような外部の企業で京丹後に興味があるとか、たまたま繋がった方々が、そこに入りやすい雰囲気といいますか、そんな方が集まってくれるような、そのような意味で拠点という言葉が当てはまっているんじゃないかなと思いましたんで、まずは住民の方々が日常的に使いながらも、ふらっときた人が受け入れられるような拠点になったら、すごく素敵だろうなと思います。その時にはおそらく、先ほどおっしゃったように私も今日アミティの一階に入ってみたんですけど、お客さんが誰もいらっしゃらなかったんで、少し寂しいなという空気を感じました。そのあたりも、賑わいをどのように見せていくのか、そういったことも含めて、一体となって考えていくというのは、行政は多分どうしても跡地利用のことばかり考えがちでありますけども、視野を広げて全体としてどういった人の流れが起きるのかなという視点を忘れずにいようかなと思いました。どうもありがとうございます。では副会長のお二方からコメントいただきたいと思います。

副委員長 : お疲れ様です。私は、市の方から跡地利用についての委員の話をいただいた時に、大変ものに要請されたなとまず思いました。この1回目の話の時には、まず立ち上げる話からされるんだろうなと思ってはいたんですけど、まさかここまで提言をされて、市民の声を届けているということを実に素晴らしいことだなと今感じています。この提言の作成に関わられましたあみラボの方々本当にお疲れ様でした。ありがとうございました。私は京丹後市網野町の長田区に住

んでいるんですけれども、銚子山古墳のすぐそこなんです。日々毎日見ているようなところで暮らしているわけで、銚子山古墳は前方後円墳で、非常に私たちの郷土が誇るものだと私は思っています。それなのにどうしてこれをもっと全面的にPRしないんだろうかなど、いつも家の台所から眺めていました。そこでこの施設の名称は、繭と古墳から取ったということで、これはPRになるなと思いました。それから私は古墳を見学するのが大好きで、色んな所を歩いて見ているんですね。特にこの2階の展望台から前方後円墳を眺められるなんて、この構想は素晴らしいなと思いました。それから私は、京丹後市母子寡婦福祉会の会長をしているわけで、ひとり親家庭の人達との関わりの中で、母親が集えるコーナーがある。お母さん達が、あそこに行ったら誰かがいる。あそこに行けば友達がいる。このコーナーは素晴らしいなと思いました。私はこの構想を立てるのに委員会を16回、そしてあみラボのワークショップを、延べ4回。そしてここに集って、この構想を練った人達の年齢層が非常に幅広い延べ100名の人達で高校生から90歳代までの人たちの思いが、この構想の中にすごく詰まっているなと思いました。市民の声がここに入っているんだなと実感もして、これが出来たらどんなふうになるか。そして、ここから情報発信して多くの人達にこの京丹後市、また網野町を知ってもらえる大きな機会になるんじゃないかなどすごく期待感も持っています。先ほど委員長が言われたように、京丹後市の市民が長生きするというのは、よく食べて、よく動いて、よく喋って、一人暮らししているから元気なんやでって言われるんですよ。確かにそうなんです。このコロナの中で、みんな家の中で鬱々していて、誰かに会いたいんだけどコロナだから仕方がない、という人たちが非常に多い。活発な人たちが非常に多いです。こういう人たちも気軽に足が運べるような、そういうものがここにできたら本当に活性化して賑わいの場所になるなと思っています。この話が4年先、5年先の建築にはなりますけれども、委員長が先ほど言われたように、その間にいろんな人の思いをそこにに入れていって、益々良いコフーンが出来れば、本当に活性化に繋がるのではないかなと思います。とても嬉しい会議に出席させて頂きました。本当にありがとうございました。

委員長 : ありがとうございました。高齢者のお話もいただきましたし、加えて古墳のお話ですね。よく行政計画でも、町の名前を隠したらどこの町でも当てはまるじゃないかというものが結構多くあるんですけども、古墳というものはもちろん全国どこでもありますけれども、銚子山古墳の歴史とこの景観はここにしかないんだと、そういったことの誇りが地域の愛着に繋がると思いますので、是非とも古

墳というキーワードは外さないで議論を進める必要があるだろうと思います。

一方で、私が堺市に行った時、堺市はすごい古墳の町なんですよ。「古墳に興奮」というフレーズがたくさん貼ってありますね。堺市はまさしく古墳のメッカみたいなところがありますから、そことは違った戦略がいるんだと思うんですよ。その辺りを是非とも皆さんは、すでにお考えだと思いますけども、考えていく。そんな拠点になったらいいなと思います。あとは拠点という話で思い出したのは、道の駅ってご存じですよ。これは国土交通省で現在全国に1115個あるのかな。そのひとつが丹後王国かもしれませんが、「まちの駅」というものもあるんですよ。これもですね、道の駅ほどは数はないんですけども、最低限のお手洗い機能とか、情報発信機能に加えて、「交流」というキーワードの中で、NPO法人さんが認可しておられますけれども、そういったネットワークあるんですよ。京都府は、私の知っている限りでは、久御山町の「クロスピアくみやま」しかないんじゃないかなと思います。北部はゼロです。道の駅はいくつもありますけど、まちの駅として京都府北部初です。そのような拠点として、今回の場所が居続けられてもいいのではないかなと。そこで休憩機能とか観光機能とかですね。あるいは小商いが生まれていくコミュニティビジネス機能とかですね。そういったまちの駅というキーワードもフィットするんじゃないかなと思いましたので、発言だけしておきたいと思います。では最後、よろしく願いいたします。

副委員長 : 今日、先生の話の中で人口減少ということがあったんですが、区長連絡協議会の方でも人口減少に関しては、色々取り組みを始めかけました。先日、区長連絡協議会の研修会というかたちで組み立てて頂いたんです。その中でやはり人口が減ってくれば、そのコミュニティを持ちにくくなる。またお金の方も入ってこなくなる。今、行政なんかが考えるのは人数×単価です。区の方でもこの部分はものすごくありまして、区費の問題であるとか、区の役員の担い手の問題。これらがものすごく出てきています。今回こういうかたちで京丹后市の方が都市拠点等のあり方、それから網野庁舎土地活用の構想、庁舎増築整備基本計画、この3つを同時進行でやっておられる中で、この網野庁舎の部分をどういうかたちで進めていくのか、色々全部が関係してくると思っておりますので、区長会なんかでも人口減少の中で、こういった施設をいかに利用してくるのか。この辺は常に考えながらやっていきたいなと思います。施設を運営するにはお金がかかります。少しでもお金が生まれるような施設の運用の仕方を考えておかないと、どうしようもないのかなと

思います。行政におんぶに抱っこというわけにはいかないのかなと。お金儲けではないですけど、そういうことも少し考えながら構想ができていければいいかなと思っていたところです。

委員長 : どうもありがとうございました。お金を生み出すという点だけ、お隣の豊岡市は公民館が320箇所あるんですね。3年前だったと思いますけども、全て教育委員会の担当から市長部局へ切り替えました。なぜかと言うと、普通の公民館だと社会教育施設ですから、そうなってくると教育的な意義のある活用方法しかできない。何か新しいことやろうと思ったときに社会教育施設というカテゴリーの中しかできないんですね。そうすると市長部局に持って行ってなんでもできるようにするというこのために、全ての公民館を例外なく市長部局に担当を変えたんですね。そういったアイデアが求められる時代だと思うんです。さらに言うと行政施設のままでさらさら限界がありますから、その部分を公共的な側面はもちろん持っていますけど、どういったことをブレイクスルーすれば、少しでも小商売ができるような、しかもそれは収益目的ではありませんから。でも収益が動いていくようなモデルを作っていけないと続かないということだと思います。その辺りを是非皆さん、色々な知恵を出し合いながらですね、単なるボランティア施設とか、市民交流施設という形の中で、よくありがちな指定管理者として町から指定管理料を貰う。これだけでは持続可能性はないと思います。それを皆さんの知恵で色々な事例も勉強していきながら、いい施設、議論を続けていけたらなと思っています。

私の進行が少し駄目で、13分もオーバーしてしまいました。この辺りで今日の議論は、終わりにさせていただきます。また次回以降も皆さんと意見を深めていきたいと思っています。次回はもう少しコフーンの話を中心に意見交換をするかたちにしていきたいと思っていますのでよろしくお願い申し上げます。では事務局の方にお返しいたします。

事務局 : はい、ありがとうございました。熱心にご議論いただきまして、本当に嬉しい思いでございます。杉岡委員長も色々と本当にありがとうございました。

それでは検討会議の日程について、事務局からご説明をいたします。

(次第7その他について説明)

第4回までの日程をあらかじめ決めさせていただいています。委員長や事務局で調整した日程ということでございまして、出来ればこの日程で予定をいただきたいと思っていますのでよろしくお願

をしたいと思います。それでは閉会にあたりまして柴田副委員長からご挨拶を申し上げます。

副委員長 : 長時間、議論等していただきましてありがとうございました。今後あと3回この会議が開かれます。その時にはよろしく願いいたします。本日はご苦労様でした。

事務局 : 以上をもちまして本日の検討会議を終了いたします。委員の皆様本日は大変お疲れ様でした。どうぞお気をつけてお帰りいただきますようお願い致します。本日は本当にありがとうございました。